

指定管理者評価シート

事業名	第二かしわ学園管理業務	所管課(電話番号)	障がい保健福祉部障がい福祉課(211-2938)
-----	-------------	-----------	--------------------------

I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市第二かしわ学園	所在地	札幌市豊平区平岸4条18丁目1-37
開設時期	昭和42年1月(平成26年4月に現在地に移転)	延床面積	742.56㎡
目的	主に知的障がい者に対し、作業・日常生活・文化レクリエーション活動を行うことにより、日々の生活の充実とともに、社会自立できるよう援助する。		
事業概要	生活介護事業		
主要施設	活動室5室、食堂、ホール、職員室、更衣室、シャワー室、相談室、厨房、便所等		
2 指定管理者			
名称	社会福祉法人 北海道社会福祉事業団		
指定期間	平成30年(2018年)4月1日～令和5年(2023年)3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由:管理期間中の管理が良好に行われていると認められたことから、札幌市福祉施設条例第13条第2項の規定に基づき非公募とした。		
指定単位	施設数: 1 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	統括管理業務、施設・設備等の維持及び管理に関する業務、施設における事業計画及び実施に関する業務		
3 評価単位	施設数: 1 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

II 令和3年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価			
1 業務の要求水準達成度						
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>・さっぽろ障がい者プラン2018と第二かしわ学園の設置目的をもとに、当法人が長年培ってきた支援ノウハウをいかし管理運営に係る基本方針を策定した。</p> <p>・さっぽろ障がい者プラン2018の計画目標の一つとして掲げられている「地域生活を支えるためのサービス基盤の一層の充実」と「個々のニーズに対応した支援体制、サービス提供基盤の整備」をもとに、学園の設置目的である「作業・日常生活・文化レクリエーション活動等を行うことにより、日々の生活の充実とともに、社会的自立を促すこと」を目指した。</p>	<p>・利用者が学園の活動を通して、より充実した日々の生活を送り、地域での生活が継続され社会自立に繋がるよう事業活動に努めた。</p> <p>・個別支援計画に基づき利用者の日常生活能力、社会生活能力、働く意欲と技能、自立能力の育成と向上を図るため、今年度も新型コロナウイルス感染症の感染・予防を講じながら、作業、体育、レク活動において「できること」を考え活動を再開し、日々の生活の充実に繋がるよう努めた。</p>	A	B	C	D
			<p>・基本方針に則り、適正に管理運営がなされている。</p> <p>・コロナ禍においても、利用者、家族への電話懇談により、利用者の個々のニーズの的確な把握に努めている点は評価できる。</p> <p>・利用者処遇向上のため、配置基準を上る生活支援員を配置した点は特に高く評価できる。</p>			

<p>・利用者が地域で自立した生活を送ることができるよう、個別支援計画をもとに利用者個々のニーズや特性に応じた支援サービスを展開した。</p> <p>ア 安定した作業の確保 イ 潤いのある日中活動の実現 ウ 利用者の重度化への対応 エ 利用者、保護者の高齢化への対応</p> <p>・利用者や家族、地域住民の声を受けとめ、寄せられた声を適切に反映し、期待に応えられるよう公共施設としての設置目的にそった透明性の高い管理運営に努めた。</p>	<p>・定員50名に対し、支援サービスの充実、運営体制を確立するために生活支援員を23名体制で行っている。</p> <p>・利用者、家族に十分な話し合い、個々のニーズが確認できるよう、全体懇談会3回、利用者(個別)懇談会を合わせて年4回を予定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により4月、3月の全体懇談会は中止したものの、10月に2年ぶりに全体懇談会を実施することができている。今まで1日で行っていたものを新型コロナウイルス感染・予防の対策として、小グループで各班ごとに5日間に分けて実施し、より学園運営の理解と関係性を深めることが出来ている。また、中止の際も利用者、家族に文書を送り学園運営の説明を行っている。利用者(個別)懇談会は新型コロナウイルス感染症の影響により中止となったが個々のニーズを確認出来るよう利用者、家族に対して個別電話懇談を実施し、支援に反映できるよう努めた。地域住民や家族代表が委員を務める運営協議会も開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により通常開催が難しい状況であったため、書面開催を実施している。運営状況の資料を送り、意見を回収するなど、透明性の高い運営に努めた。</p>
--	---

▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績

・第二かしわ学園のサービスの利用を希望する方々が、公平公正に支援が受けられるよう、利用者の基本的人権を尊重するとともに、2014年に批准した「障がい者の権利宣言」等に基づく諸権利に留意するよう職員に周知徹底した。

・法人の職員倫理綱領、第二かしわ学園における権利尊重の指針(利用者の権利尊重と職員の行動規範)、第二かしわ学園法令遵守マニュアルなどや、虐待防止責任者を配置し、公平公正な管理運営を行った。

・入退所委員会を設置し、入退所にかかわる相談内容の報告や入退所の決定を行い平等利用に努めた。

▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進

・建物設備は省エネ及び環境に配慮されているが、さらに節電、節約に努めた。また、ゴミの分別を的確に行い、リサイクルにも努めた。

・第二かしわ学園権利尊重の指針、法令遵守マニュアルを徹底した。定例の職員会議では法人の職員倫理綱領の読み合わせを行い、職員の倫理研修を定期的に行い、公平公正な支援と学園の平等利用を図ることができた。

・入退所委員会を開き、今年度新たに2名の方が利用された。

・消灯やエアコンの操作をこまめに行い、節水などの省エネに努めたが、新型コロナウイルス感染・予防のため建物の換気を定期的に行うことにより、夏・冬のエアコンのガス使用量と消毒用布の洗濯の回数も増え、節約について難しい状況があった。しかし、ゴミをリサイクルとして出すことにより、一般ゴミを減量するよう努めた。

<p>・札幌市環境マネジメントシステムに基づき、各種資料を提出した。</p> <p>▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)</p> <p>・法人本部と連携し、指揮命令系統の明確な組織体制のもと、管理運営に必要な体制を整備し、支援の充実を図った。</p> <p>・研修計画を作成し、職員研修を実施した。</p> <p>・法人の人事考課制度を実施した。</p> <p>▽ 管理水準の維持向上に向けた取組</p> <p>・利用者支援の質の向上及び事故防止のため、各職員が把握した利用者情報や家族とのやりとりを日々の打ち合わせ等で全体確認し、共通の認識をもって支援が行われるよう努めた。</p> <p>・職員会議等で業務の点検と確認を行い、より効果的に利用者支援ができるよう必要に応じて改善し、マニュアル化した。</p>	<p>・札幌市環境マネジメントシステムに基づき、適切な管理運営ができた。</p> <p>・明確な組織体制による効率的、効果的な運営管理のもと、より充実した利用者支援に努めた。</p> <p>・新型コロナウイルス感染症の影響により、施設外研修は主にオンライン研修に参加している。法人研修(虐待防止、階層別研修など)、施設内研修でも虐待防止研修を取り入れ、感染症対策研修なども積極的に行い、支援サービスの向上と改善に努めた。</p> <p>・人事考課制度を実施して8年目となった。職員それぞれの階層において目標設定を図ることができ、個人の意識向上に繋がった。また、定期的に面談を実施しながら、人材育成に努めることができた。</p> <p>・毎日の朝・夕の打ち合わせを行い、勤務時間が異なるパート職員に対しても別途打ち合わせ時間を設定し、情報の共有に努めた。また、日々の業務の中で気がついた事柄、ヒヤリハットを全職員で検討し、事故防止に努め、改善を図ることを常態化した。</p>
--	--

<p>・利用者個々のニーズや障がい特性に応じた支援サービスを適切に提供するため、個別支援計画を作成し、支援サービスの質の向上のためケース検討会議、班会議を行った。</p>	<p>・職員が利用者に関する情報を共有し、共通認識のもとで支援することで一貫した支援に繋がった。</p>						
<p>▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認) ・管理運営業務を円滑に行うため次の業務について第三者に委託した。 ア 機械警備業務 毎月報告書の提出により警備状況を確認した。 イ 給食提供業務 管理栄養士を配置し、適正な給食提供に努めた。 ウ GHP保守点検業務 定期(年1回)点検報告書により設備状況を確認した。また、フィルター清掃は年2回行った。 エ 消防設備点検業務 定期(年2回)点検報告書により設備状況を確認した。また、点検結果報告書を消防署に提出している。 オ 除雪業務 毎回の報告書の提出により、除雪状況を確認した。</p>	<p>・専門業者に委託することにより、効率的で的確な管理運営を行うことができた。</p>						
<p>▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)</p>	<p>・運営協議会を設置し、2月に実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる。3月末に書面開催ということで文書を送付し、ご意見記入用紙を同封し、運営等に対する意見等を学園運営に反映することで、より良い学園運営ができた。</p>						
<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="363 891 523 920">開催日</th> <th data-bbox="523 891 959 920">協議・報告内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="363 920 523 1037">3月末</td> <td data-bbox="523 920 959 1037"> 1. 令和3年度運営状況について 2. 令和4年度年間計画について 3. 平成3年度利用者満足度のアンケート調査結果について </td> </tr> <tr> <td colspan="2" data-bbox="363 1037 959 1368"> <協議会メンバー> 札幌市保健福祉局保健福祉部障がい福祉課運営指導係長、札幌市豊平区社会福祉協議会事務局長、札幌市豊平区南平岸地区民生委員児童委員協議会会長、北海道札幌伏見支援学校もなみ学園分校教頭、家族代表5名、第二かしわ学園長及び副学園長 </td> </tr> </tbody> </table>	開催日	協議・報告内容	3月末	1. 令和3年度運営状況について 2. 令和4年度年間計画について 3. 平成3年度利用者満足度のアンケート調査結果について	<協議会メンバー> 札幌市保健福祉局保健福祉部障がい福祉課運営指導係長、札幌市豊平区社会福祉協議会事務局長、札幌市豊平区南平岸地区民生委員児童委員協議会会長、北海道札幌伏見支援学校もなみ学園分校教頭、家族代表5名、第二かしわ学園長及び副学園長		<p>・学園だよりを広く関係機関に送付し、学園運営の理解を図った。</p>
開催日	協議・報告内容						
3月末	1. 令和3年度運営状況について 2. 令和4年度年間計画について 3. 平成3年度利用者満足度のアンケート調査結果について						
<協議会メンバー> 札幌市保健福祉局保健福祉部障がい福祉課運営指導係長、札幌市豊平区社会福祉協議会事務局長、札幌市豊平区南平岸地区民生委員児童委員協議会会長、北海道札幌伏見支援学校もなみ学園分校教頭、家族代表5名、第二かしわ学園長及び副学園長							
<p>・関係機関へ学園だより(年2回)を送付し、学園の運営状況などをお知らせした。</p>	<p>・学園だよりを広く関係機関に送付し、学園運営の理解を図った。</p>						

<p>・札幌市自立支援協議会豊平地域部会運営委員会に委員として参加し、情報交換を行った。</p>	<p>・札幌市自立支援協議会豊平地域部会では、豊平区内の事業者との情報交換、相談室などの関係構築や連携ができ、支援の充実に繋がった。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、会議などの参加は難しかったため、メールなどで各事業所の近況や新型コロナウイルス感染症の対応・対策などの情報交換をすることにより知りたい状況を共有でき、学園運営にも役立てることができた。</p>
<p>▽ 財務(資金管理、現金の適正管理) ・資金管理については、法人監査(経理)と、会計監査人による監査を受けた。 ・現金等の取扱は法人の経理規程及び第二かしわ学園現金取扱規程により行った。</p>	<p>・法人監査、事務指導及び会計監査人の監査により、適正に資金・現金の管理を行った。</p>
<p>▽ 要望・苦情対応 ・要望への対応としては、毎日の連絡帳や家族との全体懇談会及び個別懇談会などでいつでも相談できる体制を整備した。</p> <p>・苦情の対応は、第二かしわ学園苦情解決取扱要綱により行った。</p>	<p>・利用者個々に担当があり、いつでも連絡帳や電話連絡で要望などを相談できる体制を維持した。また、利用者満足度では相談などの職員対応の満足度は、100%という高い評価をいただいた。</p> <p>・令和3年度は、受付をした苦情はなかった。</p>
<p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <p>・利用者満足度調査の回答率は92%であり、仕様書の要求水準の80%以上の回答率を達成した。</p> <p>・総合満足度は100%であり、仕様書の要求水準である80%を上回る高い評価をいただいた。</p> <p>・札幌市の財務・業務検査で、改善や指摘事項はなく、適正に執行されていると認められた。 ・札幌市への報告として、毎月第二かしわ学園利用状況報告を提出した。</p>	<p>・今後も利用者満足度調査を継続して行い、学園運営の参考にする。さらに利用者及び家族に喜ばれるサービスの提供に努めていく。</p> <p>・今後も各規定に定めるとおりの適切な運営に努めていく。</p>

<p>(2)労働関係法令遵守、雇用環境維持</p>	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間外・休日労働に関する協定書、給与からの法定外控除に関する協定書、就業規則、給与規程など必要な労働関係法令を整備した。 ・法人で行っているストレスチェックを実施し、職場環境の改善に努めた。 ・労働時間内の事故が発生した場合、職員全員に発生事例の共有をし、原因究明と対応策、または今後の改善について職員全員で周知・確認を行うこととしているが、今年度は事故はなかった。 ・法人で正規職員を雇用する際、非正規職員から希望を募り、登用採用試験を実施し、正規職員に1名転換している。 	<p>・法人本部と連携し、適切に対応できた。また、職員の労働時間管理をするため、タイムカードを導入している。また、ストレスチェックの評価を職員全員に周知し、傾向と対策の確認をしている。</p>	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。</p> <p>・正規職員への転換を積極的に進めた点は特に高く評価できる。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				
<p>(3)施設・設備等の維持管理業務</p>	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者の障がい特性を理解し、常に安全確保に努めた。 ・行動障がい等がある利用者を対象として、本人、家族と相談をもとに作成した「安全を確保するための身体拘束」を要する利用者支援マニュアルにより、適切に対応し安全確保に努めた。このマニュアルは職員全員に確認、または必要な場合は見直し変更を行い、年度当初に会議を開いて周知している。 ・ハード面では特に施設に留意し、施設建物からの飛び出し等所在不明がおきないように努めた。 ・施設賠償保険は、仕様に適合したものに加入している。 ・北海道胆振東部地震後、課題となっていた「非常用の携帯電話」を購入し、災害等の非常時に使用できるよう体制を整えたが、新型コロナウイルス感染症の関係でも非常時の連絡体制として活用することができた。 ・家庭での不慮の事故を未然に防ぐため、学園独自の「安心気づきネット」を整備し、地域生活をサポートする体制を維持した。 <p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・清掃については、「第二かしわ学園施設清掃計画」を策定し、年2回のワックスがけや大掃除等を計画的に実施した。 ・夜間等の警備は、警備業者に機械警備を委託した。 ・消防設備等の保守点検は、専門業者に委託し適切に管理した。 	<p>・利用者の障がい特性を理解し、行動障がい等がある利用者には、本人、家族と相談し個別支援計画に身体拘束を記載した。また、身体拘束は「安全を確保するための身体拘束」を要する利用者支援マニュアルに基づき、職員間で共通対応している。そのため、利用者の安全を確保することができた。その都度、家族に報告している。</p> <p>・ヒヤリハットを全職員で共有することで、大きな事故は発生しなかった。</p> <p>・非常用携帯電話について、新型コロナウイルス感染症の関係で非常時に連絡体制ができたことと、どのようなときでも学園と連絡できる体制は利用者、家族の安心にも繋がった。</p> <p>・仕様書に基づき、施設・設備等の維持管理を適切に行った。</p> <p>・法令等に基づき、消防設備保守点検などを行った。</p>	<table border="1"> <tr> <td style="background-color: yellow;">A</td> <td style="background-color: yellow;">B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				

	<p>▽ 防災</p> <ul style="list-style-type: none"> ・消防計画、防災計画を整備し、毎月自主訓練を行った。その中で避難訓練、通報訓練、消火訓練、地震時の訓練などを行った。また、地震・風水害BCPを作成している。 ・北海道胆振東部地震により、通所施設ではあるが非常時の食料備蓄(1日分)を用意し、非常用携帯電話、通信機器のバッテリーなどの備えをしている。 	<p>毎月、訓練を繰り返して行うことで、有事の際に利用者・職員が速やかに避難できるよう備えた。また、地震・風水害BCPを作成し、職員に対して防災研修等で周知・確認を行っている。北海道胆振東部地震により、緊急時用の備えを行い、利用者、家族に説明している。</p>									
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>・学園の設置目的である「作業・日常生活・文化レクリエーション活動などを通して日々の生活の充実とともに社会自立の促進」を図ることを目指し、事業計画を作成し実施した。</p> <p>▽ 支援体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域生活を支援する通所の生活介護事業所として、多様化している障がい状況と利用者、保護者の高齢化を踏まえ、一人ひとりへの支援体制を強化し、個別支援機能の充実を図った。また、利用者の人権尊重と利用者本位のサービス提供に努めるとともに、利用者、家族、札幌市との連携を密にして円滑な事業及び施設運営に努めた。送迎サービスは希望者が多く、約8割の方が送迎車を利用した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者満足度調査では総合満足度100%を達成し、事業運営に高い評価をいただいた。 ・新型コロナウイルス感染症の感染・予防に重点を置いて学園運営を行っている。そのため、新型コロナウイルス感染症の影響により、計画通りの運営を行うことができなかったが、新型コロナウイルス感染症の感染・予防を講じながら「できること」を考え、少しずつ行事や活動を再開している。利用者、家族の心配や不安があったと思われるが、その都度密に家族と連絡を取り合い、利用者、家族の理解と協力を求め実施することができている。いつもと違う状況下であるからこそ、一人ひとりへの支援体制を強化することに努めた。 	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・利用者個々人の適正に応じたきめ細かい配慮によりサービスが提供されている点は評価できる。</p> <p>・利用者及び家族との信頼関係の構築に努め、利用者の登園率の向上を図った点は評価できる。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								

▽ 日中活動の充実

・生産的、創作的作業活動の機会の提供に加え、班活動、体育活動、レク活動、外出・外食活動等の日中活動の充実を努めた。また、日常生活を営む上で必要な食後の歯磨き、身辺処理、日々の健康管理、毎月の体重測定、検診車によるレントゲン検査を含めた健康診断、嘱託医による内科検診等利用者の健康管理に努めた。さらに、余暇時間を利用してダンスや玉入れ、パズル等の趣味的な援助も行い、生活の張りや生きがいに通じるよう活動の充実を図ることができた。

・生産的活動は、コーリングのリングの付け替え、木製品玩具磨き、うに箱底板作り、チラン作業の外注作業と、アルミ缶を洗って漬すアルミ缶作業と農耕を継続して行っていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、チラン作業の外注は全くなく、コーリングの付け替えについては、業者側として破損が多かったリングを耐久性の良いものへと交換したため、今年度半ばから受注がない状況であった。そのため、アルミ缶を洗って漬すアルミ缶作業を中心に行っている。アルミ缶の単価が上がったのと木製品玩具磨きは定期的に受注があり安定しており、農作物も学園祭で販売し元気ジョブよりチランの配送を受けたことにより、売上に繋げることができている。また、紙すきや工芸品作り（ビーズや組ひもフェルトボールなど）を行い、働く意欲と作業活動の提供に努めた。また、体育活動、レク活動、外出・外食活動は、新型コロナウイルス感染症の感染・予防を優先することにより、中止や変更を余儀なくされた部分あったが、「できること」を考え、なるべく利用者や家族のニーズに応えられるよう回数は減るものの活動を小グループ化で実施することで少しずつ活動再開できている。健康管理について、検診車によるレントゲン検査を含めた健康診断と嘱託医による内科検診を実施している。

▽ 定員の充足

・利用者のニーズに即した事業活動の充実を図るとともに、利用者・家族との信頼関係の構築に努め、利用者の登園率の向上に努めた。また、養護学校卒業生の確保に向けて新型コロナウイルス感染症の感染・予防に努めながら、実習生の受け入れを図るとともに、学園利用の希望を持つ家族の問い合わせや相談支援事業者等の関係機関との情報交換を行い対応した。

・利用者、家族の加齢に伴い登園できない利用者や、新型コロナウイルス感染症の影響により登園できない利用者がいたが、1日平均の利用者数は前年度42.7人から43.4人に増している。

	<p>▽ 研修体制の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間研修計画に基づき、法人の階層別職員研修を含め、施設外研修会の参加と内部研修を積極的に行い、支援サービスの向上と改善に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により、施設外研修はオンライン研修で7回7人だったが、法人研修の虐待防止研修や階層別研修、施設内研修においても虐待防止研修を実施し、新人職員研修を始め、防災研修または感染症対策研修なども行った。一般救急講習会を中止したが、7回ほど142人の研修を行った。 																					
<p>(5)施設利用に関する業務</p>	<p>▽ 利用件数等</p> <table border="1" data-bbox="359 728 957 851"> <thead> <tr> <th></th> <th>R2実績</th> <th>R3実績</th> <th>増減</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>開所日</td> <td>235日</td> <td>239日</td> <td>4日</td> </tr> <tr> <td>延べ利用者数</td> <td>10,045人</td> <td>10,372人</td> <td>103.2%</td> </tr> <tr> <td>1日平均利用者数</td> <td>42.7人</td> <td>43.4人</td> <td>101.6%</td> </tr> </tbody> </table> <p>▽ 不承認 0件、取消し 0件、減免 0件、還付 0件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当なし <p>▽ 利用促進の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援学校1校から、3人の実習生の受け入れを行った。また、学園利用希望を持つ家族の問い合わせにも対応している。利用者家族の高齢に伴い、短期入所の利用を行いながら現在の生活が出来る限り継続出来るよう相談支援事業所との連携を図っている。 		R2実績	R3実績	増減	開所日	235日	239日	4日	延べ利用者数	10,045人	10,372人	103.2%	1日平均利用者数	42.7人	43.4人	101.6%	<ul style="list-style-type: none"> ・支援学校の実習生の受け入れを行っている。その中で、学園利用希望を持つ3年生が1人実習をし、卒業後の進路先として決定している。また、利用人数については少し増加傾向が見られており、利用率は86.8%であった。 	<table border="1" data-bbox="1228 705 1420 728"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・高い利用率を維持している点は評価できる。 ・特別支援学校の実習受入れなどを積極的に行っている点は評価できる。 	A	B	C	D
	R2実績	R3実績	増減																				
開所日	235日	239日	4日																				
延べ利用者数	10,045人	10,372人	103.2%																				
1日平均利用者数	42.7人	43.4人	101.6%																				
A	B	C	D																				
<p>(6)付随業務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道社会福祉事業団のホームページで、札幌市第二かしわ学園の最新の状況を提供できるよう更新した。学園広報誌の学園だよりを年2回発行し、関係機関へ学園の運営状況について広くお知らせした。 ・第二かしわ学園のパンフレットを毎年作り替え、利用者や家族、関係機関へ配布した。 ・利用者、家族に学園通信を毎月発行し、タイムリーな情報をきめ細かくお知らせした。 <p>▽ 引継ぎ業務 (指定管理期間のため該当しない)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に広報活動を行うことで、学園の運営状況等が関係機関や利用者や家族の理解につながった。 	<table border="1" data-bbox="1228 1500 1420 1523"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・各種広報媒体を利用した活動は評価できる。 	A	B	C	D																
A	B	C	D																				
<p>2 自主事業その他</p>																							
	<p>▽ 自主事業 (協定書により自主事業は行えない)</p> <p>▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市内業者、福祉施設から作業の受注を受けるほか、物品の購入等は市内業者に発注した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内業者をできるだけ利用した。 	<table border="1" data-bbox="1228 1904 1420 1926"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> ・適正に事業を実施している。 	A	B	C	D																
A	B	C	D																				

3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果

		A	B	C	D
実施方法	調査期間	令和3年10月11日～10月29日			
	調査方法	各家庭にアンケート用紙を配布(原則無記名だが、回答者の判断で記名を依頼)			
	対象者	利用者・家族 55名(前年度54名)			
	回答者数	51名 回答率92%(前年度53名、回答率98%)			
結果概要	①個別支援計画の内容について				
	満足100%(前年度96%)、普通0%(前年度4%)、不満0%(前年度0%)				
	前年度より満足度は上がり、利用者、家族の意向が個別支援計画に反映できていると思われ、高く評価された。				
	②作業活動、生活活動、体育活動などの状況について				
	満足100%(前年度96%)、普通0%(前年度2%)、不満0%(前年度2%)				
	前年度より満足度は上がっている。新型コロナウイルス感染症の影響により、感染・予防を優先することで活動の中止、変更を余儀なくされたものの「できること」を考え、少しずつ活動再開したことが評価に繋がったと思われる。今後も感染・予防は優先ではあるが、出来る限り活動を提供できるよう努めていく。				
③職員の接遇に関して					
満足100%(前年度100%)、普通0%(前年度0%)、不満0%(前年度%)					
前年度と同様であり、高い評価をいただいた。					
④職員は乱暴な言動や体罰等することなく対応していると感じますか					
満足100%(前年度100%)、普通0%(前年度0%)、不満0%(前年度0%)					
前年度と同様であり、高い評価をいただいた。					
⑤職員対応の公平について					
満足98%(前年度98%)、普通0%(前年度0%)、不満0%(前年度0%)、無回答2%(前年度0%)					
前年度と同様であり、高い評価をいただいた。					
⑥相談などの職員対応について					
満足100%(前年度98%)、普通0%(前年度2%)、不満0%(前年度%)					
前年度より満足度が上がり、利用者、家族との密な関係を心がけたことにより、職員の対応に関して高い評価をいただいた。					
		<p>・回答率は92%で要求水準80%以上を大きく上回っている。</p> <p>・仕様書で80%以上の水準が求められている総合満足度は、100%と高い評価をいただいた。</p> <p>・9つの質問項目全てにおいて98%以上の評価をいただき、総合満足度は100%であった。今後、より一層利用者支援に努め、更なるサービスの向上を目指していく。</p>			
		<p>・要求水準を10%以上超える満足度であり、特に高く評価できる。</p>			

	<p>⑦施設は清潔に保たれているか</p> <p>満足100%(前年度98%)、普通0%(前年度2%)、不満0%(前年度0%)、無回答0%(前年度0%)</p> <p>前年度より満足度が上がっている。今後も利用者に清潔な環境を提供するため努めていく。</p> <p>⑧事故防止など、安全管理の取り組みや対応について</p> <p>満足100%(前年度98%)、普通0%(前年度0%)、不満0%(前年度2%)</p> <p>前年度より満足度が上がっている。今後も事故防止や安全管理に努めていく。</p> <p>⑨当施設の総合的な満足度について</p> <p>満足100%(前年度98%)、普通0%(前年度2%)、不満0%(前年度0%)</p> <p>総合的な満足度は上がり、100%であった。</p>	
利用者からの意見・要望とその対応	<ul style="list-style-type: none"> ・いつもいい環境の中で子どもの事を考えてくださり、本人も毎日楽しんで通えて親も安心してお任せしています。 ・大変お世話になってます。子どもは毎日登園するのを楽しみにしています。コロナに注意して、外出・外食も少しずつ出来るようになって職員の皆さんに感謝です。皆さんの頑張りです。これからもよろしくお願いします。 ・新型コロナウイルスの予防の対応は大変だと思いますが、本当によくやっていただけていると感謝しております。行事の中止や変更も正しい判断であったと思います。 ・懇談も久しぶりに学園ででき、とても嬉しく感じました。コロナ対策もしっかりしていて安心しました。早く以前の生活が出来るようになると良いですね。 ・皆様、笑顔で接して下さっています。感謝しております。本当に大変ですが、これからも笑顔で接して欲しいです。 ・コロナ禍で色々大変なこともあるのにも関わらず、利用者のことを第一に考えて学園運営をして下さり感謝しております。これからも宜しくお願いします。 	

4 収支状況

▽ 収支

(千円)

項目	R3年度計画	R3年度決算	差(決算-計画)
収入	140,476	134,726	▲ 5,750
指定管理業務収入	140,116	134,256	▲ 5,860
指定管理費			0
給付費	136,259	129,034	▲ 7,225
利用料金	3,250	3,114	▲ 136
その他	607	2,108	1,501
生産活動事業収入	360	470	110
自主事業収入			0
支出	130,414	126,595	▲ 3,819
指定管理業務支出	130,054	126,125	▲ 3,929
生産活動事業支出	360	470	110
自主事業支出			0
収入-支出	10,062	8,131	▲ 1,931
利益還元	0	0	0
法人税等	0	0	0
純利益	10,062	8,131	▲ 1,931

▽ 説明

・利用者、家族の高齢に伴い、他事業所を利用する方がおり、年度途中で1人の利用者が契約終了している。また、その他の事由で1人が契約終了となったため在籍数が2人減ったことと、新型コロナウイルス感染症の影響により、休園を余儀なくされた4日間もあり、収入の減収となっている。しかし、利用者の登園率は前年度42.7人から今年度は43.4人になり、支出も抑えることに努めたため、計画の純利益は達成できなかったが黒字となっている。

・新型コロナウイルス感染症の影響により休園を余儀なくされた状況になったため、減収となっている。また、新型コロナウイルス感染症の不安感から未だ登園できない利用者もいるが、前年度より登園率が上がり、支出を抑えることに努めた結果、純利益は計画より減少したものの昨年度の赤字から黒字転換となっている。

A B C D
 ・新型コロナウイルス感染症の影響で計画より減収になったが、計画より経費を縮減している点は評価できる。
 ・収益を活用し、更なる支援の質の向上に努めていただきたい。

<確認項目> ※評価項目ではありません。

▽ 安定経営能力の維持

・当法人は一体的に福祉サービスを提供しており、財政状況は安定していた。

適 不適

・安定した運営を保持している。

▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

・各条例の規定に則り、全て適切に対応した。また、入札にあたっては入札参加資格に暴力団の排除を明示し適切に対応した。

適 不適

・各条例を順守し、適正に対応している。

Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>・第二かしわ学園の運営は3期12年目に入り、「作業・日常生活・文化レクリエーション活動を行うことにより、日々の生活の充実とともに、社会自立を促すこと」の設置目的の成果を上げるため、適正な管理運営に努めた。</p> <p>・指定管理を受け12年目となっている。今年度も新型コロナウイルス感染症の感染・予防に重点を置いて学園運営を行っている。そのため、行事や活動の中止、変更があり、計画通りの運営を行うことができなかった。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染・予防を講じながら「できること」を職員一同考え、少しずつではあるが活動を再開している。活動再開にあたり職員を増やし、外での活動において小グループ化で活動を実施したり、活動時期を感染拡大する時期とはずらして集中的に行うことで、活動(外出・外食や行事など)を再開することができている。活動再開時は、まだまだ以前の生活に戻れない窮屈さがあるものの、利用者の楽しそうな表情に共に喜びを感じることができた。そして、日々の生活の充実の大切さを改めて感じ、私共の使命を再確認している。活動再開にあたり、利用者、家族の不安や心配があったと思われるが、理解と協力、信頼関係の上に成り立っていることを受け止め、どのような状況であっても一人ひとりにあった日中活動の提供を行い、日々の充実に繋がることを目標に支援に努めることの大切さをも感じている。また、職員の資質向上に向けて研修や教育を行い支援体制の充実に繋げ、一人ひとりを大切にする支援に努めた。しかし、今年度も学園を休園せざるを得ない状況になり大変ご迷惑をおかけしたが、今までの利用者、家族との信頼関係と札幌市の理解と協力のもと乗り越えることができている。</p>	<p>・第二かしわ学園の指定管理期間3期13年目に入る。今までの実績を踏まえ、これからも福祉サービスの更なる充実を目指し、適正な管理運営に努めていく。</p> <p>・第二かしわ学園の設置目的である「作業・日常生活・文化レクリエーション活動を行うことにより、日々の生活の充実とともに、社会的自立を促すこと」を十分理解し、新型コロナウイルス感染症の感染・予防を重点置き、この状況下で「できること」を考えながら管理運営を行っていく。そして、利用者のニーズや状況、特性に応じた支援を通して、一人ひとりを大切にする支援と更なる支援体制の充実を目指し、適正な管理と安心して学園に通えるよう努めていく。そして、4期目の更新に繋げていきたい。また、利用者の平均年齢は32.3歳だが年齢状況も二極化してきていることと、この数年に入所された利用者も重度の方が多く、家族とともに生きていくためにどのような支援が必要なのかを考え、地域生活を支える利用者、家族の思いを反映できる支援体制を整えていく。また、定員の充足について、利用率の向上と運営体制の確立に努め、より質の高い施設を目指していくとともに、収支の安定化に努めていく。</p> <p>・利用者、家族の皆様から信頼される施設運営が進められるよう、利用者満足度調査や専門機関の客観的な評価をいただきながら、札幌市との連携を図り、円滑な事業及び運営に努めていく。</p>

【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>新型コロナウイルス感染症の影響があり、登園率及び収益については減少が見られたが、通知等により利用者や家族の不安解消に努めている。非正規職員の正職員登用も進めており、基準を大きく上回る支援員数により、利用者にきめ細やかな支援を提供できている点は特に高く評価できる。</p> <p>また、利用者や保護者との信頼関係の構築ができており、利用者アンケートの高評価を維持していることは、要求水準を大きく上回っており特に高く評価できる。</p>	<p>引き続き、利用者処遇の向上に努めてもらいたい。</p>